



問い合わせ先 生涯学習課
0968(25)7232

問い合わせ先 人権啓発課
0968(25)7209

富田甚平と 富田式暗渠排水技術

富田甚平の功績

富田甚平は江戸末期に菊池市七城町に生まれ、明治の農地改良に尽力しました。甚平の生まれた台地区周辺の田んぼは、当時大変水はけが悪く、作業はとも大変でした。甚平はあぜ一つ違っただけで収穫に大きな差があることに気づき、水はけが原因ではないかと考えました。

明治11(1878)年、1反4畝の小さな湿田を購入し、排水の実験を始めました。甚平は実験を続け、およそ25年もかけて暗渠排水技術を考え出しました。排水のための土管を水田に埋め、排水、給水をコントロールするのです。水田からの排水口と水田外への排水口の高さが違うため、排水口に蓋をすれば水は流れずに水田となり、蓋を上げると水が流れ田が乾く仕組みになっていきました。

この技術により、菊池だけでなく全国の多くの湿田が良質な田へと変わっていききました。晩年、甚平は土地改良技術や農事改良全般の指導のため、日本各地にまねかれています。暗渠排

水技術の開発者だけではなく、農業のすぐれた指導者でもあったのです。

土地改良の父 富田甚平企画展

富田式暗渠排水技術の実物の土管や富田甚平の遺品、紹介パネルなどを展示しています。

期間 平成31年2月3日(日)
料金 大人200円、小中学生100円

ところ わいふ一番館まちかど資料館

富田甚平シンポジウム

とき 11月10日(出) 午前10時開演(午前9時30分受付開始)
ところ 七城公民館講堂

申込先 (株)熊日広告社
096(327)3161



富田式暗渠排水土管

黒いランドセル

菊池市地域人権教育指導員 米村隆一郎

小学校入学は、長い人生の中でも大きな節目の一つです。卒園の喜びと寂しさの中で、真新しいランドセルや学習机を準備し、胸躍らせる子ども様子を幾度となく見てきました。そして今、わが家では三人の孫が来春の小学校入学を心待ちにしています。しかも、ランドセルの準備はすべて祖父母に託されています。祖父の愛情と約束を果たす時期が、刻々と迫っているようです。

以前、人権教育研修会で聞いた「黒いランドセル」という話が、心に強く刻まれています。ある小学校に一人の女の子が入学しました。女の子は、黒いランドセルを背負って登校したそうです。教室でも、学校の行き帰りでも、たくさんの子から冷やかされました。「女の子は赤のランドセル。黒のランドセルは男の子だろー!」と。担任の先生は、子どもたちに精一杯説明しますが、子どもたちになかなかうまく届きません。女の子は、とうとう学校へ行けなくなりました。保護者は悩んだ末、学校を変えました。転校先の学校でも、子どもたちから「おかしい!」の聲が上がりました。担任の先生

は保護者に、「黒いランドセルを背負って登校するのには、きつと訳があると思います。よかつたら、黒いランドセルのわけを教えてくださいませんか?」と尋ねました。家の人は先生にアルバムを見せながら、その訳を話しました。「この子には、三歳上の兄がいました。黒いランドセルを背負って小学校に入学しましたが、ランドセルを背負って学校へ行ったのは、一日だけでした。兄は、小児がんに侵されていました。二回目のランドセルを背負うことなく、この世を去ってしまいました。この子が入学するとき、『新しいランドセルを買おうよ!』と家族は勧めましたが、『私は、お兄ちゃんのランドセルを背負って学校へ行く。大好きなお兄ちゃんといっしょに学校へ行く!』と強く望みました。それで、私たちもこの子の言うことを見守っていたのです」。

この後、担任の先生は、このことを学校の先生方に話し、学校を挙げてこの問題に取り組み、女の子は、胸を張って黒いランドセルを背負って学校へ行けるようになったということです。

兄を思う女の子の純粋な気持ち

に涙するのと同時に、黒いランドセルの理由を確かめることなく、冷やかしいじめの対象になっていた学校の取り組みの甘さに怒りを覚えます。また、転校先の先生の「何かあるのでは?」と、真実を見極めようとする豊かな感性や行動力に救われた思いがします。

私たちの意識の中に、「黒いランドセルは男の子」「女の子は赤いランドセル」という思い込みはないでしょうか。科学的根拠はなくても、周りの声に同調してしまっている間に社会通念として出来上がってしまうことがあります。そして、このような固定観念にマイナスイメージが加わり、偏見や差別につながっていくのです。この事例のように、思い込みや固定観念で判断してしまっていることはないのか、自分の心の中を一度見つめ直してみませんか。

